

## 洞窟で文化を味わう文化の日

近藤 節夫

栃木県那須烏山市の洞窟内で歌手・加藤登紀子の娘、YAEさんのコンサートがあると小中陽太郎さんからお誘いをうけ、文化の日に東京駅から東北新幹線、東北本線、烏山線を乗り継ぎ、終着駅「烏山」の一つ手前の「滝」という日本の原風景のようなところへ出かけた。

会場は、戦時中防空壕として使用された洞窟を、「東力士」という銘酒を醸造している地元の酒造会社が借り受けて、普段はお酒の貯蔵倉庫として使用しているものだ。気温 10℃、湿度 90%の好条件の下で、総延長 600m、総面積約 720 坪のスペースに約 13 万本の醸造酒が貯蔵されているという。

その中で「光と音楽とお酒のコラボレーション」と銘打ち、幻想的なイベントを演出してくれた。洞窟入り口前で、おにぎりや豚汁、振る舞い酒で腹ごしらえをした。狭い洞窟入り口から真っ直ぐに突き進むと右手床面に、地元の和紙照明作家・鎌田泰二氏が竹細工と和紙で制作した光のオブジェ、個性的なぼんぼりや行灯が仄かに輝いている。一瞬ひんやりとして幻想的な世界に足を踏み入れた気分である。途中二箇所ほど横坑を交差すると左右には酒壺が棚に並べられている。突き当たりを右折した縦長の一角がコンサートホールに使われていて、天井もさほど高くなく、音響が逃げない自然構造になっている。適度なエコーも耳に心地よい。

先日テレビでこの洞窟が報道されたが、聞けば近日公開の映画ロケにも使われたとか。

YAEさんの歌声をフォルクローレ・ギタリストの木下尊惇さんが伴奏して、伸びのある声を洞窟一杯に響かせてくれた。木下さんは、チャランゴという珍獣アルマジロの皮を貼りつけた、ボリビアの珍しい民族楽器も独奏してくれた。二人ともこのような洞窟で公演するのは初めてで、今日の印象的なコンサートは生涯忘れないだろうと語ってくれた。

鍾乳洞の中でコバルトブルーに映える神秘的な湖上を、ボートに乗った楽士がバイオリンとチェロを演奏してくれた、シヨパン所縁のスペインのマヨルカ島や、南イタリアのカプリ島の洞窟内で手漕ぎボートを操る船頭が、♪サンタ・ルチア♪を声量一杯に唄ってくれた光景が、鮮烈に眼と耳に焼きついている。洞窟という閉ざされた空間の中で聞こえてくる心地よい歌声は、原始へのロマンと癒しを耳元に囁いてくれるようだった。スケールにおいて彼我の差はあるにせよ、ここにも相通じるムードが幻想的に醸し出されているように感じられた。

帰りに酒造会社社長ご夫妻の案内で醸造元を訪れ、お話を伺いながら年代物の銘酒を代わる代わる味わわせていただいたが、次々に古酒を味わうウワバミのような、元気のよい若い女性も同席していて、いま休酒中の私もついトククといってしまった。みんなほろ酔い機嫌になって、そのままJR烏山駅から上野経由浅草へ出て、小中さんお薦めの釜飯屋さんへ寄り、美味しい釜飯をご馳走になって帰宅した。小中さんご夫妻、日経の西山貢さんご夫妻、建築家の勝野定典さんと一緒に珍しい音楽とお酒を味わい、日本の古き文化にたっぷり浸ることが出来た。文化の日らしい好天にも恵まれ、ローカル線で日本の田園風景を眺め、エンターテイメントも心から楽しめて、私にとっても感慨深い 69 歳の誕生日となった。